

蕎麦打ちの技術・豆知識

3. 醤油にかかわる歴史秘話

(平成10年4月 そばMLより)

「鵜の会」常任理事広報部

北川 庄司

1942年、時の大統領ルーズベルトはアメリカ国籍があるなしを問わず、西海岸に住んでいた日系人を強制収容所に送りました。収容所の食生活は悪いものではなかったそうですが、日本の調味料などあろうはずもなく、日系の人達はたいへん不自由な思いを強いられたようです。

そんなおり、日本赤十字からの慰問物資が国際赤十字を通して、収容所の日系人に送られました。その物資の中でもっとも喜ばれたのが醤油でした。二つの祖国の狭間で悩んでいた日系の人たちには、もう一つの祖国からのプレゼントにたいへん感激したそうです。このとき送られた醤油はキッコーマンで、以後アメリカの日系人社会では、醤油＝キッコーマンというイメージが定着してしまったそうです。

そして、戦争が終わり、収容所から解放された日系の人たちは、日本の食糧の窮状を知り、あのときの醤油の恩返しをしようと募金活動を始めました。それがLARA・公認アジア救済機関(Licensed Agency for Relief of Asia)という組織に発展します。

この「ララ物資」第1号は昭和20年11月29日に横浜に到着しました。内容は日系の人々の募金による3万ドル分の米や粉ミルクだったそうです。

私は、終戦直後日本を飢えから救った救援物資はすべて米軍のものだと思っていたのですが、このような民間からの援助もあったのですね。

醤油が終戦直後の日本を救ったというお話です。

「しょうゆ世界への旅」大塚 滋著 東洋経済新報社刊 より。



